

「いのちのはなし」

いのちの教育月間にちなみ、次のような話を、月曜朝会でしました。

毎日午前中を中心に、学校の中を回り授業中や休憩時間の教室の様子を見ていると、いろいろな声が聞こえてきます。そして、最近耳に刺さるような、悲しい言葉や怖い言葉が聞こえてくるときがあるのです。「お前なんかあっち行けよ」「しね」「きもいよ」マイナス言葉、とげとげ言葉、悲しい言葉、言ってはいけない言葉。

本当にあっちへ行って帰ってこなくていいのでしょうか。本当に死んでしまったらどうするのでしょうか……。

絶対にやってはいけないこと、言ってはいけないことはあるのです。桃五の皆さんには人を傷つけるそんな言葉は言ってほしくないのです。

ケンカもするでしょう。取っ組み合いもするかもしれませんが、でも、そんな中でも、励まし合って、友達を大切に、そんな子になってほしいのです。

そんな気持ちを込めて、今日は「やってはいけないこと 言ってはいけない言葉」という話をします。

————— すいぶん前に見かけたことです。

先生の家の近くの、緑あふれる日曜日の朝の公園。鳥の声も響いてとてもさわやかな、気持ちのいい朝です。

足の不自由な男の子がお母さんと朝の気持ちのいい道を歩いていました。足の病気でしょうか、うまく歩けない様子で、ゆっくりゆっくり、ちょっと傾くようにして歩いていきます。あしにはころんでも足をけがしたりしないように装具をつけています。転ばないように怪我しないようにお母さんがついていきます。ガチャガチャという音をさせながら、ベビーカーをゆっくりゆっくり押しながら、それでもとってもうれしそうにお母さんの顔を見ながら、ガチャガチャと、でもやっぱり倒れそうになりながらゆっくりゆっくり歩いていきます。

そこへ、向こうからお母さんと一緒に、幼稚園の年少さんくらいの子がきました。チョコチョコ走り回って元気です。何か楽しそうにおしゃべりしながら、お母さんの後ろに回ったり前に回ったりしながら楽しそうです。

そして、道の反対側を歩いている足の不自由な男の子に気づきました。じいっと見つめて、明るい声でこんなことを言いました。

「ねえ、ねえ、お母さん、あのおにいちゃん歩き方がおかしいね。怪獣みたいだ。」

—— やってはいけないこと 言ってはいけない言葉

校長 丸山 麻雄

すると、お母さんは「しいいっ。あのおばさんがこわい顔してこっちを見ているから、そんなこというのやめなさい。」といいながら急いで遠ざかっていきました。

足の悪い子にはこの声は聞こえなかったようです。でも、この子のお母さんは、とてとて、悲しい顔をして、涙を流して男の子の手をぎゅうっと握って、抱きしめていました。

幼稚園の子は何気なく、悪気もなく、そして、小さいからよくわからずに気になっていったのでしょうか。それでも、いわれた人にすればとってもつらく悲しいこと。だから、やっぱり言ってはいけないことなのです。

そして、この、幼稚園の子のお母さんの言った言葉、「おばさんがこわい顔をしているから……。」この言葉が悲しい言葉なのです。こわい顔しているからやめるのではなく、言ってはいけないことなのです。

小さくて知らなくとも、言ってはいけないことは、やっぱり言ってはいけないのです。

それなのに、こんな言い方をしたお母さんの言葉で、足の不自由な子のお母さんはつらく悲しい気持ちになってしまったのでしょうかね。

もう一度言います。桃五の皆さん。「やっていいこと、やってはいけないこと。」「けっして言ってはいけないこと。」「いけないことはいけないのです。」

誰にでもいたずらな気持ちとか、ちょっと意地悪な気持ちとかは、あるかもしれません。でも、そのちょっとのいたずらな気持ちをみんな集めたら、我慢しきれない『いじわる、いじめ』になってしまうのです。一人一人、小さい悲しい気持ちにおっことして、生きる元気さえなくさせてしまう悪い力になってしまうのです。

桃五の皆さんには、ひとの気持ちを思いやり、友だちを大切に、すてきな子たちでいてほしいのです……。

幼稚園でも学校でも、小学校でも中学校でも。そして学校でも家庭でも、どこでも同じようにいけないことはいけないと教えていきたいものです。

これからも「共育」。地域を挙げてめあてを共有していければ、子どもたちはより豊かに健やかに育ちます。

学校内の共育体制も整え全力で子どもたちを育てます。皆様、どうかよろしくご厚意申し上げます。